

山形済生病院
公的医療機関等 2025 プラン

平成29年11月 策定

【 基本情報 】

医療機関名:社会福祉法人^{恩賜}_{財団}済生会山形済生病院

開設主体:社会福祉法人^{恩賜}_{財団}済生会

所在地:〒990-8545 山形県山形市沖町 79-1

開設者:社会福祉法人^{恩賜}_{財団}済生会支部山形県済生会 支部長 濱崎 允

病院長:濱崎 允

許可病床数:473床(稼動病床数も同数)

(病床の種別)

一般病棟(7対1入院基本料) 352床、回復期リハビリテーション病棟 53床、地域包括ケア病棟 51床、
ICU 4床、NICU 8床、人間ドック 5床

(病床機能別)

急性期 369床、回復期 104床

標榜科目:26科目

内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、腎臓内科、血液内科、リウマチ科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、精神科

職員数:911名

医師 67 名、保健師 45 名、助産師 46 名、看護師 367 名、看護補助者 55 名、介護福祉士 12 名、医療助手 25 名、薬剤師 28 名、理学療法士 35 名、作業療法士 20 名、視能訓練士 1 名、言語聴覚士 10 名、診療放射線技師 21 名、臨床検査技師 34 名、臨床工学技士 12 名、管理栄養士 7 名、医療ソーシャルワーカー11 名、胚培養士 3 名、臨床心理士 2 名、健康運動指導士 13 名、事務 97 名(平成 29 年 10 月 1 日現在)

理念

Mission: 「仁」…愛と思いやりの医療を提供します

Value: 安全で質の高い医療 / 誠実で信頼される医療 / 連携に基づくチーム医療

Vision: 急性期病院として地域医療に貢献します

関連施設:

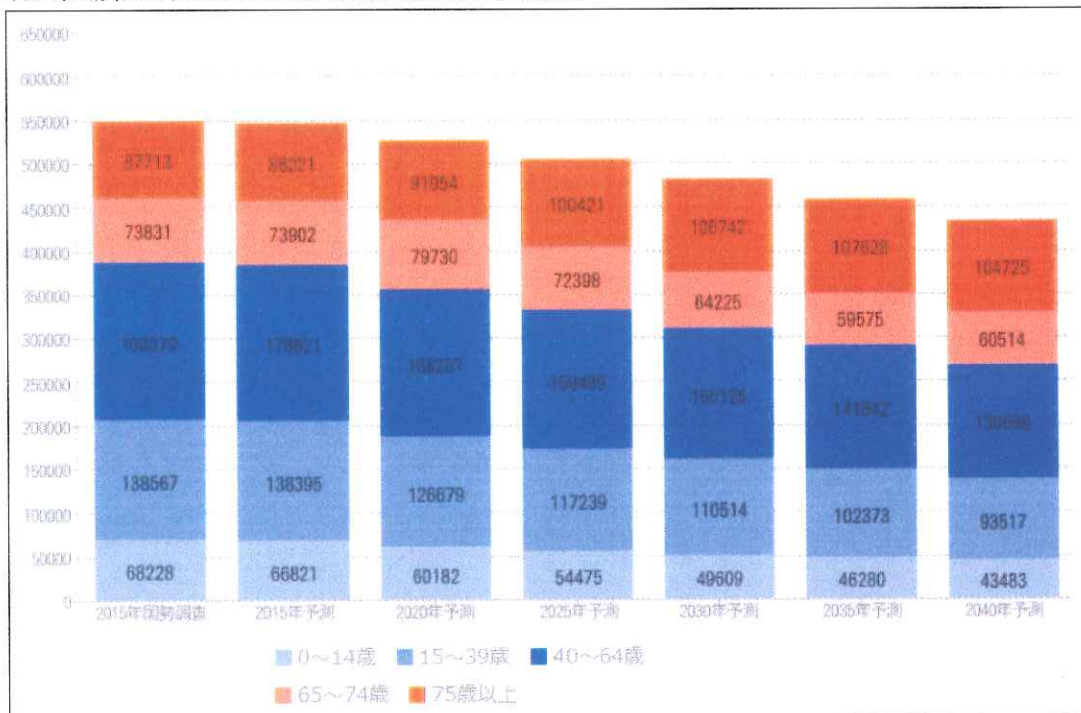
- ・ 介護老人保健施設「フローラさいせい」
- ・ 特別養護老人ホーム「愛日荘」「やまのべ荘」「ながまち荘」「山静寿」
- ・ 養護(盲)老人ホーム「山静寿」
- ・ 「済生会山形訪問看護ステーション」「はやぶさ保育園」

【1. 現状と課題】

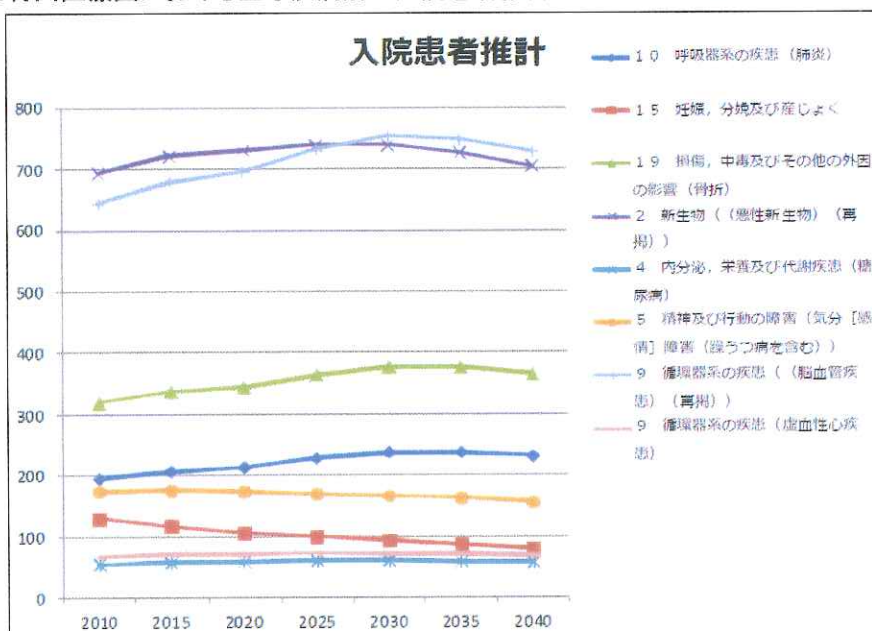
① 村山構想区域の現状

- 総人口は減少する傾向にありますが、75歳以上の高齢者が増加するため、入院患者数は増加が見込まれています。また15歳未満人口が大幅に減少することから、少子化のさらなる進展が見込まれます。このような人口構造の変化により、肺炎、骨折、脳血管疾患、がんをはじめとする疾病の患者は増加し、一方で妊娠・分娩による入院は大きく減少していくことが見込まれています。
- 村山二次医療圏の中核たる山形市には、済生会山形済生病院の他に山形大学医学部附属病院や山形県立中央病院、山形市立病院済生館などの大規模急性期病院が集中しています。推計による2025年の必要病床数と現状を比較すると、高度急性期・急性期病床は過剰となり、回復期病床が不足する状況にあります。

■ 村山医療圏の将来人口推計(地域医療情報システムより)



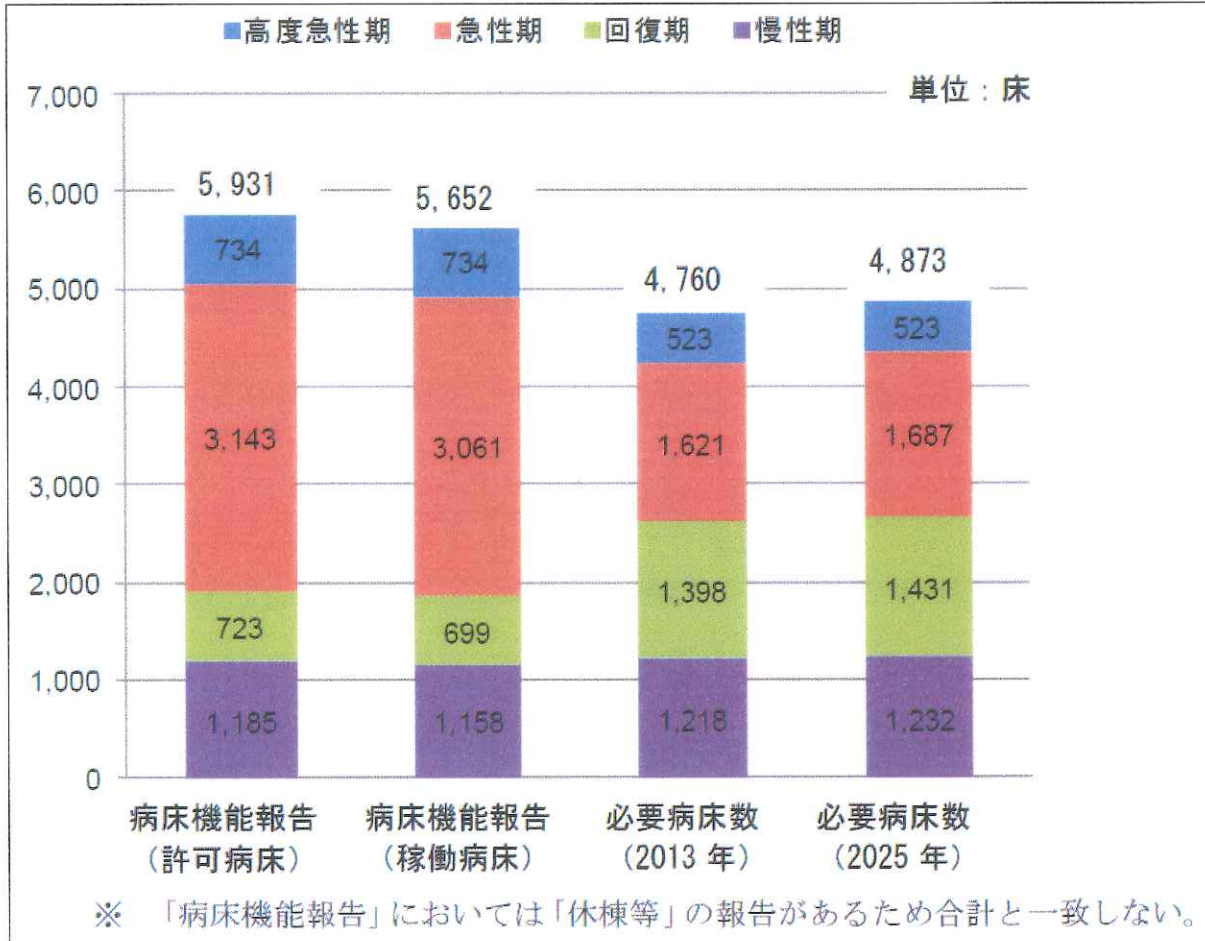
■ 村山医療圏における主な疾病別の入院患者推計(山形県地域医療構想より)



② 村山構想区域の課題

- 現在の推計による 2025 年の必要病床数と現在の病床数を比較すると、高度急性期・急性期病床は過剰となり、回復期病床が不足する見込みです。将来の医療需要に対応するため、高度急性期・急性期を担う病院と回復期・慢性期を担う病院との機能分担や、地域包括ケアシステムを担う介護施設等との連携について、地域全体で検討を進める必要があります。

■村山地域における病床機能報告(H27.7.1)と2025年の必要病床数の比較(山形県地域医療構想より)



③ 自施設の現状

- 村山医療圏を中心に急性期医療を提供してきましたが、回復期病床が不足している地域の状況を鑑み、平成 27 年度に急性期2病棟を「回復期リハビリテーション病棟」と「地域包括ケア病棟」に機能転換しました。
- 村山医療圏における DPC 患者シェアでは、筋骨格、女性、新生児疾患がトップシェアであり、特色ある医療を行っています。中でも膝関節及び股関節の人工関節置換術は全国でも有数の手術実績があります。また、平成 26 年度から下肢静脈瘤に対するレーザー(ラジオ波)治療にも注力しており、バスキュラー・ラボと連携し、検査・診断・治療をスムーズに行っています。
- 山形県地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠・分娩・産褥管理を中心に年間 700 件以上の分娩を取り扱っています。また、NICU を中心として、低出生体重児等の新生児医療にも対応しています。
- 臨床研修指定病院として、研修医や大学の臨床実習を積極的に受け入れています。
- 災害拠点病院(地域災害医療センター)として、災害時には村山地域の救急対応を担います。また、DMAT 指定医療機関として、大規模災害時には全国に DMAT(2 チーム)を派遣しています。
- 他医療機関と連携し、地域連携パス(大腿骨頸部骨折、脳卒中、肝がん)の積極的に運用しています。

- 「施薬救療」に始まった済生会の精神に則り、無料低額診療を積極的に行っています。また、より多くの医療を必要としている方々を支援するため、生活困窮者支援事業(なでしこプラン)として、社会貢献活動の受け入れや更生保護施設の健康診断、在住外国人への医療相談などに取り組んでいます。

■村山地域における DPC 病院実患者シェア(山形県地域医療構想 別添参考資料その1より)

MDCコード	山形済生	山形大学	県立中央	済生館	東北中央	県立河北	北村山
合計	14.3%	16.8%	26.0%	22.1%	5.7%	6.4%	7.7%
01 神経	18.1%	11.5%	21.9%	31.4%	0.5%	5.4%	10.6%
02 眼科	1.4%	43.4%	32.5%	17.5%	4.5%	0.0%	0.1%
03 耳鼻	1.7%	21.1%	32.4%	38.5%	1.1%	1.1%	2.8%
04 呼吸器	8.9%	13.2%	26.7%	34.2%	4.0%	5.1%	7.0%
05 循環器	15.4%	24.4%	30.7%	11.6%	4.5%	4.6%	7.7%
06 消化器	12.0%	12.7%	25.0%	17.4%	8.8%	11.1%	12.6%
07 筋骨格	35.5%	17.0%	11.8%	7.1%	22.2%	3.4%	2.5%
08 皮膚	7.1%	28.0%	20.2%	29.7%	3.5%	3.8%	6.6%
09 乳房	13.4%	17.8%	30.0%	13.2%	16.1%	5.2%	3.9%
10 内分泌	17.1%	13.8%	28.1%	20.3%	0.7%	9.8%	9.5%
11 腎尿路	8.7%	13.8%	32.4%	28.2%	0.5%	9.2%	6.8%
12 女性	27.4%	20.5%	26.9%	15.7%	0.0%	3.2%	4.3%
13 血液	5.2%	21.4%	41.7%	22.5%	1.5%	3.9%	3.7%
14 新生児	36.8%	16.1%	20.1%	19.3%	0.0%	1.6%	2.9%
15 小児	6.6%	2.9%	24.1%	50.6%	1.7%	4.1%	9.4%
16 外傷	19.8%	10.2%	17.8%	21.5%	3.9%	11.7%	13.8%
17 精神	15.2%	3.0%	3.0%	21.2%	12.1%	3.0%	42.4%
18 その他	7.3%	31.7%	19.6%	23.9%	2.8%	2.0%	12.8%

④ 自施設の課題

- 地域包括ケアシステムの中で、役割分担と連携が一層求められています。山形県済生会の介護老人保健施設や特別養護老人ホームといった介護保険施設との連携を更に強化し、他の施設とも連携をはかりながら医療・介護サービスを提供する必要があります。
- 救急告示病院として、救急対応や急患紹介の受入体制を整備し、前方連携を充実させる必要があります。
- 医師・看護師をはじめとする医療スタッフの確保が困難な状況です。特に若手医師の確保は困難を極めており、年々医師の高齢化が進んでいます。看護師の応募者数も減少傾向にあり、確保は困難な状況になってきています。医療スタッフの確保とともに、勤務負担軽減にも取り組む必要があります。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- 急性期、地域包括ケア、回復期リハビリテーションの病棟を備え、患者様の病態に応じた医療を展開していきます。また、各診療科の専門性を生かし、救急医療や急性期疾患への対応、継続的な治療とリハビリによる在宅復帰を支援し、地域医療に貢献していきます。
- 済生会のスケールメリットを最大限活用するとともに、平成 27 年度に整備した回復期病棟を積極的に運用することで、村山地域における地域包括ケアシステムを担います。

② 今後持つべき病床機能

- 平成 27 年度に回復期病棟への機能転換を実施しました。現時点では、新たに機能転換を行う予定はありません。

③ その他見直すべき点

- 少子高齢化の進展に伴い、急性期病棟の利用率が低下傾向にあります。今後の医療需要の推移を加味して、最適な病床規模について検討する必要があります。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

村山医療圏を中心に急性期医療(473 床)を提供してきましたが、回復期病床が不足している地域の状況を鑑み、平成 27 年度に2つの病棟をそれぞれ「回復期リハビリテーション病棟(53 床)」(平成 27 年 12 月転換)、「地域包括ケア病棟(51 床)」(平成 28 年 3 月転換)へ機能転換して、急性期機能を 369 床、回復期機能を 104 床としました。

平成 30 年 1 月からは回復期機能を病院南館の2つの病棟(計 100 床)へ移転して、より充実した療養環境のもとに運用を行います。

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	369		373
回復期	104		100
慢性期			
(合計)	473		473

② その他の数値目標について

■経営に関する項目

項目	平成 28 年度 (実績)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
経常収支比率(%)	105.5	102.6	101.2	102.3	102.7
医業収支比率(%)	105.9	101.6	100.1	101.3	101.6
人件費率(%)	52.7	55.1	55.1	55.1	55.1
医業収益に占める人材育成 にかかる費用の割合(%)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2